令和４年度　　学校経営ビジョン　　　　能美市立宮竹小学校

１　経営理念

「宮っ子の未来のために」をモットーに、校長の経営方針を全体で共有し、主任を中心とした協力・協働の組織的学校運営により学校の使命を果たし、家庭・地域から一層信頼される学校を目指す。

　　そのために、常に、改革意識を持って学校教育全体の向上を図るとともに、日々の教育指導や学校研究等を教職研修の場と捉え、計画的・継続的に行い教員の資質・能力の向上を図る。

＜宮竹小学校が提供するもの＞

・児童には　　　　　「向上」と「喜び」　　　＝学びがい～学ぶ厳しさと楽しさ、やり切る強さ

・保護者・地域には　「安心・安全」と「信頼」を＝頼りがい～みやつこを育てる協働体・基盤

・教職員には　　　　「責任・自覚」と「誇り」を＝働きがい～組織として稼働し成果を上げる

２　校　訓

「至誠　勇気　自治」（大正4年校歌制定より）

・「至誠」は、誠を尽くすこと。人として当たり前の思いやりの心や行動を身につけること。

・「勇気」は、すべての人の前に拡がる可能性・未来に向かい、自分を信じて挑戦する精神。

・「自治」は、自分自身と向き合い自分を見つめながら、よりよい生き方を切り開く逞しさ。

３　教育目標

「志を持って、知性、感性、創造性を磨き、

粘り強く学び続ける『考動』力のある児童の育成」

４　教育目標の具現化＝**「レジリエンス体験による「学力」（3要素）の向上**

（１）めざす学校の姿

・誰もが大切にされ学ぶ喜びが実感できる　登校したくなる学校

 ・生涯にわたり能動的な学びを展開し　成長する力を育む学校

 ・家庭・地域と協力して創る「地域の誇り」となる学校

（２）めざす教師の姿　＜情報共有・共通理解・共通実践の徹底＞

子どもの心に未来を生き抜く灯をともす教職員

・学校経営計画を理解し、その実現のために組織的な学校運営に積極的に参画する職員

・子ども一人一人を理解し育成する使命感を持つ。そのために自己研鑽・切磋琢磨する職員

・ワークライフバランスの取組の推進

　豊かな教養・温かな人間関係：笑顔のある職場

（３）めざす児童の姿

**タフでポジティブなチャレンジャー！ふるさと大好き　元気な宮っ子**

３つの「み」

一人一人を

・みつめ・みつける

・みとめる

・みがきあげる

　　　　　　　　　　　　　　　ずから考え取り組む子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　さしく思いやる子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　ながりを大切にする子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　ころと体を鍛えやりぬく子

（４）児童の行動目標：

**「タフでポジティブなチャレンジャー」になるために　あきらめずに・やり切る子になろう**

**＜宮っ子エイト＞**

**①　明るいあいさつや返事をする　　　　② 「ありがとう」感謝を伝える**

**③　時間を守る　　　　　　　　　　　　④　みんなで確認したきまりを守る**

**⑤ 整理・整頓、早めの準備 　　　　　⑥　最後まで「聴く」「話す」**

**⑦　失敗は成功のもと　　　　　　　　　⑧　認め合う・磨き合う**

５　今年度の重点目標と方策

（１）組織的な学校運営　**＜チーム学校の推進＞**

①　各部会の機能化と充実→共通理解・共通実践・教師の学び合い→　組織的・機動的な学校運営の推進

②　目標を共有して連携・協働する「チーム学校」の実働化→　諸課題の未然防止・早期解決につなげる「報連相」

各取組・行事で「目指す児童の姿」と方法を具体的に共有する＝「みやつこ」の実現

③　明快な方向付けによる「働きがい」のある職場づくり→　効果的な働き方改革の推進

（２）**知**　確かな学力を育む**＜主体的・協働的で深い学びの実現、GIGAスクール構想の推進＞**

〇　確実なねらいの達成につながる日々の授業改善、新たな課題への「探究心」の育成

　・　系統的・組織的で実効的な教科研究のPDCAによる積み上げ

　・　GIGAスクール構想の推進による学びの実感・学力の向上

　・　「みやっこシステム」の充実による「知識・技能」の確実な習得　（朝学習から家庭学習までの連結）

（３）**徳**　豊かな人間性を育む　**＜自治的活動の推進と心の醸成＞**

〇　「生徒指導の3機能」の実働による「みやつこ」ハートの育成

　・　子ども一人一人の変容(up・down)を見逃さない組織的な３つの「み」（みつめる・みとめる・みがきあげる）

　・　特別活動を中心とした自治的活動・交流活動の工夫による集団づくり

　・　道徳教育の充実による豊かな感性・社会性の育成

（４）**体**　心身の健康を育む **＜生活習慣の向上＞**

〇　個々が目標をもち達成感と意欲を実感できる体育の授業づくりと「１校１プラン」の推進

〇　望ましい生活習慣・健康保持のための学校・家庭・地域の連携・協働

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(メディアコントロール・感染症対策）

（５）家庭・地域との連携　**＜地域とともにある学校＞**

〇　地域との連携による「SDGsを中心とする『探究』的な学び」の充実

〇　「保（幼）－小ー中」の連携による長期的な学校教育力の向上

〇　専門教育機関との連携による個の尊重と伸長

2022年度：全職員総がかりの取組として必須なこと

　共有された取組について、一枚岩となって徹底・積み上げる＝「みやたけプライド」誇りと責任

①　明確で達成しがいのある課題・ゴールの設定とレジリエンス体験による達成感の実感

　・確実なねらい　　　　　・ゴールまでの見通し

・個の役割責任　　　　　・交流や協働の場の工夫・必要感

・レジリエンス体験によるより強い達成感と確実な成長

・GIGAの利活用　　　　・客観的な評価の活用

②　何のための行事・取組かを明快にする

　＝目的意識・相手意識を子どもと共有する　「何のために？」

＝「Iメッセージ」の言える子に　「自分は～考える。～したい。なぜならば、…。」

＝子どもを育てる視点を共有し、評価と指導を一体化する

　　行事の計画・中間評価・ふり返りには

・ゴールの姿(つけたい力）を具体化したうえで、

・子どもの成長とその理由、今後の手立てを　自覚化させる・認め合う・客観的評価の利用